岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
オリエンテーション			デジタルヘルス人材育成プログラムの目的、講義全体の概要説明を行う。	**LIVE配信** **11/30（月）** **18:00-19:00**	岡山大学 志水 武史 吉葉　恭行
1．ヘルスケア関連分野の教育プログラム	制度・市場概論	公的医療・介護保険制度の概要	本講義は、医療保険制度と介護保険制度についての概要を講義する。現在、日本の国民医療費は約50兆円、介護給付費は約12兆円となっており、将来に向けて持続可能な制度運営のあり方が問われている。本講義では、主に医療保険制度に焦点を当て、医療保険制度の構造的な特徴、医療におけるお金の流れを明確にし、医療保険制度を「立体的」に捉えることを目標にする。そのもとで、日本の医療保険制度の課題を明確にし、デジタル人材が医療・介護に貢献すべき方向性について展望を検討していく。 講義後に20分程度の質疑応答の時間を設けます。	LIVE配信 （1月以降）	國學院大學 林 行成
		医療・介護関連産業の概要	高齢化が進み疾患を抱える人が増加しているなか、医療・介護へのニーズはますます増大している。これに応える医療・介護関連産業の成長は社会的な意義も大きい。当該産業には、医療機関や介護事業者や、医薬品や医療機器、福祉機器を製造する事業者や卸業者がある。また、公的保険外サービスを提供する健康増進や介護予防に関連するサービス、さらには美容や旅行等、関連産業のすそ野は幅広い。このような医療・介護関連産業に“デジタル”が貢献できる場面には様々なものがあると想定される。本講義では、デジタルヘルス関連ビジネス参入の基礎知識として、医療・介護関連産業の全体像をお示しする。	録画配信	(株)NTTデータ 経営研究所 米澤 麻子
		国・自治体・企業における健康関連施策の概要	国や自治体では、少子高齢化、生産年齢人口の減少を踏まえ、住民の健康増進や疾病予防が主要な政策課題となっている。企業では、従業員の健康増進を経営的視点から実現する健康経営が注目を浴びている。他方、医療費や介護給付費の増加を背景に、保険者にも疾病予防や介護予防への機能発揮が求められている。以上を背景に、国や自治体、企業、保険者は、様々な健康関連施策を展開している。“デジタル”が活躍する健康関連サービスのビジネスモデルを検討する上で、健康関連施策への理解は不可欠である。本講義では、国・自治体・企業における健康関連施策の内容や事業構造について概説する。	録画配信	(株)NTTデータ 経営研究所 米澤 麻子

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
1．ヘルスケア関連分野の教育プログラム	制度・市場概論	医療・介護関連 国家資格人材の概要	医療・介護分野の国家資格の概要、有資格者の可能業務について概説する。	録画配信	(株)マイナビ 土井 桃子
		医療機関・介護施設経営の概要	急速な少子高齢化の進展と医療の高度化により、わが国の医療費は年々増大し、医療保険財政を圧迫している。また、新型コロナウィルスによる感染拡大は大きな社会変化を引き起こし、患者の医療に対する意識を変化させた。医療機関は存在理由が問われ、どのように生き残っていくかという大きな岐路に立たされている。医療の質の向上、患者サービスの充実、経営の効率化など、病院が急務とする課題は多岐にわたり、病院の最高管理者である院長の意思決定は今まで以上に重要なものとなり、病院の将来を左右すると言っても過言ではない。本講義では病院のトップ・マネージャーに焦点を当て、リーダーの成長の視点で医療機関の経営について概説する。	録画配信	岡山大学 渡邉 豊彦
		ヘルスケア分野における法規制の概要	医療・ヘルスケア業界は生命・健康にかかわる業界のため、他業界と比べて、知っておくべき法規制・倫理的配慮が圧倒的に多い。また、法規制やこれを取り巻く環境の変化も著しい。デジタルヘルスに関わるビジネスを検討し広げていくにあたり、これらの法規制・倫理的配慮は避けて通れない。 本講義では、薬機法（医薬品・医療機器等法）、医師法・医療法、個人情報保護法を含むデータ規制、知的財産法、倫理・研究規制について触れる。デジタルヘルス領域のビジネスを展開される皆様が理解しておきたいこれらの法規制を、具体例も交えながら紹介する。	LIVE配信 （１月以降）	アクアシス法律事務所 根本　鮎子
		デジタルヘルス産業・市場の概況	デジタルヘルス産業・市場の概況について概説する。	録画配信	日本医療ベンチャー協会 加藤 浩晃
	臨床概論	消化器内科概論 (消化器内科における人工知能研究と臨床応用)	近年、消化器内科領域におけるコンピュータによる補助診断（CAD）の応用は、畳み込みニューラルネットワーク(CNN)の発展に伴い急速に進歩している。特に消化器内視鏡領域においてその進歩は著明であり、大腸腫瘍の鑑別診断、拾い上げに関してはすでに実用化され医療現場で使用されている。本講義では現在臨床応用されている消化器内科領域における人工知能（AI）の紹介、我々が取り組んでいるAI研究について概説する。	録画配信	岡山大学 河原 祥朗

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
1．ヘルスケア関連分野の教育プログラム	臨床概論（臓器別疾患、治療）	消化器外科概論	食道癌は消化器癌の中でも治療難易度が高く、集学的治療と高度な外科技術が求められます。 本講義では、ダビンチを用いた高難度手術や進行癌に対する低侵襲手術の最前線を解説します。 また、蛍光色素を用いた血流評価・リンパ流解析によるナビゲーション手術や、遠隔指導システム「TELEPRO」を活用した術者教育など、デジタル技術による安全性・精度向上の取り組みを紹介します。デジタルヘルスの視点から外科医療の未来像を考える機会とします。	録画配信	岡山大学 野間　和広
		呼吸器内科概論	医学の進歩は年々その歩みの速度を増しており、各分野の知識は膨大なものになりつつあります。呼吸器の分野のみに限ってもそのすべてを一人の医師がカバーするのはすでに困難なほどの状況であり、デジタル化の力を借りてこのような膨大な医学知識をどのように扱い診療に活かすのか、今後、求められる医師像も変化してくと予想されます。本講義では、呼吸器疾患においてデジタル化によって期待されること、解決が難しいことなどを事例を挙げて紹介できればと思っております。	録画配信	岡山大学 市原 英基
		呼吸器外科概論	肺がんに対する肺切除術、慢性呼吸器疾患に対する肺移植手術を中心とした呼吸器外科手術に関して解説いたします。内容としては手術の適応となる疾患と、手術の実際についてです。後者は手術動画を供覧しながら説明いたします。また医療技術の進歩に伴い普及してきているロボット支援手術についてもお示しいたします。外科医として手術を安全に低侵襲に確実に行うための工夫や手術の奥深さ、魅力を少しでもお伝えできれば幸いです。	録画配信	岡山大学 田中 真
		腎臓内科概論	我が国の慢性腎臓病の患者数は約1,300万人と多く、糖尿病性腎臓病、腎硬化症、慢性糸球体腎炎、多発性嚢胞腎など原因疾患は多彩である。腎機能が低下し末期腎不全に至れば、透析治療あるいは腎移植による腎代替治療が必要となり、患者のQOLは大きく損なわれ、また高額な医療費により医療財政を圧迫する一因にもなっている。透析の回避や腎予後の改善のためには慢性腎臓病の早期受診・早期治療による重症化予防が重要である。今回の講義では、各腎臓病およびその治療法の概要について解説する。	録画配信	岡山大学 辻 憲二

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
1．ヘルスケア関連分野の教育プログラム	臨床概論（臓器別疾患、治療）	泌尿器科概論	泌尿器科と聞くとどのようなイメージをお持ちでしょうか。泌尿器は尿路(腎、尿管、膀胱、尿道)および男子性器(精巣、前立腺、陰茎)を扱う診療科であり、ロボット手術などの内視鏡手術を行っているほか、多岐に渡る疾患を診察しています。講義では尿路・精路の解剖を紹介し、各論として①排尿障害(頻尿、前立腺肥大)②尿路・性器感染症、尿管結石③悪性腫瘍(手術・化学療法)④性機能・ジェンダー⑤腎移植といった当科で取り扱う疾患の病態や治療を概説するとともに、当科で行っている研究に関して、AIを用いた研究を絡めて紹介します。	録画配信	岡山大学 渡邉 豊彦
		循環器内科概論	現在、心血管病は世界の死因の主たる原因である。さらに世界的に高齢社会になったことから心血管疾患の増加に拍車がかかっている。 中でも増加が著しいのが心不全、動脈硬化そして不整脈である。 これら心血管疾患は誰でもなりうるcommon diseaseであり、生活習慣病の側面も持っている。 本講義ではこれら心血管病の診断と治療の課題をわかりやすく説明する。	録画配信	岡山大学 湯浅　慎介
		心臓血管外科概論（循環器領域におけるDX；携帯心電計を用いた遠隔医療システム）	医学のデジタルフォーメーションとして、循環器系における活用、変革について話をします。近年の通信技術の進歩は無限の可能性を秘めておりますが、医療の現場に十分に反映されていないのが実情であります。我々は既存のインターネット回線（携帯電話回線を含む）を用い、超小型、インターネット対応の携帯心電計と介護老人への対応も加味した敷きシート型モニターを使用して僻地、離島、災害地や在宅寝たきり高齢者の医療現場から、主治医や専門医に遠隔医療システムの実際を確立する事を目指してきました。現在では、このモニタリングシステムが応用され、マラソン事故の予防、さらには農業就労者の生体モニタリングとして活用の場を広げております。	録画配信	岡山大学 笠原 真悟
		脳神経内科概論	脳神経内科医は脳・脊髄や末梢神経が器質的あるいは機能的に障害される疾患の患者の診療にあたっています。 具体的には、アルツハイマー型認知症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、脳梗塞、多発性硬化症、ギランバレー症候群、てんかん、頭痛など非常に多様な疾患に対応しています。近年、アルツハイマー型認知症の抗体療法の出現にも関連した形で、認知症の早期診断の必要性が高まっており、デジタルデバイスを用いた様々な新規診断法などが次々に開発されてきています。	録画配信	岡山大学 小坂田　陽介

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
1．ヘルスケア関連分野の教育プログラム	臨床概論（臓器別疾患、治療）	脳神経外科概論	脳神経外科の手術は、脳という特殊性ゆえに特に、安全、確実、かつできるだけ低侵襲であることが求められる。 ITを応用したイノベーションが多く導入され、様々な手術支援技術が日々の手術で活用されているが、革新的技術の開発や工夫に際して、医工連携が非常に重要である。 この講義では、現在行われている脳神経外科手術のうち、ITを駆使したイノベーションが応用されているものについて、動画も交えて解説する。 今後の手術機器の開発・作製などにわずかでも参考になれば幸いである。	録画配信	岡山大学 田中　將太
		精神科概論 ～精神医学における デジタル化とAIの展望～	精神疾患は、日本国内でも多くの患者が抱える重要な健康問題であり、世界的にも障害調整生命年（DALY）ががんや心血管疾患を上回る課題となっています。しかし、精神疾患の診断や治療は、症候学が中心となり、AIの活用が特に難しい分野とされています。AIの活用例としては、医療画像の解析や医療ビッグデータの活用が挙げられます。さらにAI技術を活用した新しい診断・治療法の開発が期待されています。この講義が、精神疾患に対する理解を深め、AI技術の可能性を探る新たな視点を提供することを期待しています。講義後に10分程度の質疑応答の時間を設けます。	LIVE配信 （１月以降）	東北大学 香田　将英
		総合内科概論 ～総合診療における デジタルヘルスと 遠隔診療の活用～	我が国が超高齢社会を迎える中、多様な健康問題に包括的に対応する「総合診療」の重要性が高まっています。本講義では、まず総合内科・総合診療の基本的な役割と、現代の医療現場が抱える課題について概説します。その上で、近年急速に発展しているデジタルヘルス（生成AIを用いた診療支援ツールや、地域医療データベースの構築など）が、総合診療の現場でどのように活用されうるのかを紹介します。さらに、地域医療を支える上で欠かせないIoTを活用した遠隔診療への応用などにも触れ、医療の質向上や負担軽減に向けた展望をお話しします。講義後に10分程度の質疑応答の時間を設けます。	LIVE配信 （１月以降）	岡山大学 徳増　一樹
		小児科概論	まず、日本における小児関連の公衆衛生と疫学を説明します。次に、子どもの特性に着目しながら、小児医療と小児保健の概要を説明します。とりわけ、子どもの感染症の特徴とそれへの対応（ワクチンの重要性）、岡山大学病院「小児医療センター」で実施されている最適な高度先進医療を紹介します。最後に、岡山大学在職中に実施した多岐にわたるアウトリーチ活動（医師主導のクラウドファンディングを含む）について説明します。	録画配信	川崎医科大学 総合医療センター 塚原 宏一

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
1.ヘルスケア関連分野の教育プログラム	臨床概論（臓器別疾患、治療）	小児神経科概論	ヒトの早期の発達の大部分は生まれつきプログラムされており、その実体は、DNAなどの配列として私たちの体に書き込まれた遺伝情報です。 遺伝性疾患は数千個あるとされ、その大半は小児期に神経症状を呈し、病態も複雑です。コンピュータの処理能力が向上し、膨大な量のゲノム情報を処理することができるようになりました。ゲノムの異常によって起こる子どもの神経疾患について理解が進み、それに基づく治療も始まっています。 これらの疾患を中心に、新しいデジタル技術の医療への応用についてご紹介します。講義後に10分程度の質疑応答の時間を設けます。	LIVE配信 （１月以降）	岡山大学 武内　俊樹
		放射線科概論	放射線医学は臨床では大きく画像診断・放射線治療・IVR (Interventional Radiology; 放射線カテーテル治療)の三部門に分かれる。画像診断ではレントゲン、CT、MRI、核医学等の画像についてレポートを記載し、その診断に寄与する。放射線治療は良悪の疾患に対し放射線を照射することで、治療や症状緩和を目指す。IVRでは超音波、CT等の画像補助下に癌の組織採取、アブレーション治療や血管内カテーテル手技など、従来の手術手技より低侵襲な検査や治療を行う。これら三つの部門につき、近年のトピックに触れながら概説する。	録画配信	岡山大学 宗友　一晃
		産婦人科概論	産婦人科の特徴として、少子高齢化や晩婚化などの社会の変化を感じやすい点が挙げられます。最近の出生数の変化や、出産年齢の高齢化に伴い、どのような変化が起こっているのか、また今後起こりうるのかについて考えていきたいと思います。また、一部の婦人科がんでは親から子へ遺伝が関係する遺伝性腫瘍があり、最近になって保険制度が変更されより身近なものになっています。これらについても、現在の問題点も踏まえてお話ししていきます。	録画配信	岡山大学 松岡 敬典
		整形外科概論 （AI研究の歴史と整形外科領域のAI研究）	近年、医療AI研究は「大規模言語モデル（LLM）」の登場によって大きく変わってきています。これまでの言語処理だけでなく、画像も扱えるLLMが登場したことで、医療画像や診断支援の分野にも革新が起きています。特に注目すべきは、これらの技術が企業主導で急速に発展している点です。国際学会（CVPRなど）やプレプリントサイト（arXiv）では、毎月のように新たな技術や発見が発表されており、追いかけるだけでも一苦労です。そのため、医療AIを研究するには、単一分野だけでなく、幅広いAIの動向を知る必要があります。 本講演では、画像AIと言語AIの発展の流れを振り返りながら、現在の医療AIの状況を解説します。講義後に10分程度の質疑応答の時間を設けます。	LIVE配信 （１月以降）	岡山大学 中原 龍一

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
1.ヘルスケア関連分野の教育プログラム	臨床概論（臓器別疾患、治療）	形成外科概論	形成外科という診療科自体は比較的新しいが、その手技としては紀元前2，3世紀に遡る。古代インドでは鼻削ぎの刑が行われており、削ぎ落とされた鼻の欠損部に頬部の皮膚を皮弁（血流が維持された皮膚）として移植する造鼻術がなされていた。その後、植皮術や各種皮弁、顕微鏡下に組織移植をおこなうマイクロサージャリーなど様々な形成外科手技が開発され今日に至っている。本講義では形成外科の概略と基本的な手技、顔面移植や再生医療、コンピューターシミュレーション技術を応用した手術などの最先端の形成外科医療について解説する。	録画配信	岡山大学 髙成　啓介
		眼科概論 (前眼部や眼底画像が面白い！)	視覚を司る眼球は角膜、水晶体、硝子体の透明組織から成るため、眼底と呼ばれる網膜を直接観察できます。魚眼レンズを使った広角度の網膜写真、赤外光による光干渉像として網膜断面の層構造を描出する画像が日常診療で使われています。健康診断でも無散瞳眼底カメラによる眼底写真が糖尿病網膜症や緑内障の診断に役立っています。機器の性能向上によって撮影する医療者負担も少なく、まぶしさもないため撮影される患者負担も少なくなっています。日本企業トプコンの無散瞳眼底カメラによる糖尿病網膜症の自動診断ソフトが米国で製造販売承認され、内科医が使っています。スマホなど携帯カメラで撮った自身の眼の写真を診察で見せてくださる患者様方もいます。線状光を斜照射して前眼部写真を撮るスリット照明をスマホにつけた機器も販売されています。	録画配信	医療法人 社団井口会 総合病院 落合病院 松尾 俊彦
		耳鼻咽喉科概論 (医療を支える ソーシャル・イノベーション)	いうまでもなく医療には限界がある。筆者はこれまでに聴覚障害者が抱える社会的課題に関して、当事者のニーズと岡山県でのデータをもとに福祉制度の改変や助成制度の全国展開を行ってきた。現在は、聴覚障害者の災害時、緊急時の音声情報の入手困難に伴う避難の遅滞や安全性確保の問題に対し、緊急通知音を振動に変換するウェアラブルデバイスの開発を行っている。製品化を目指す上で、プロダクトデザインには社会的価値、当事者価値、収益性のバランスが必要である。医療における課題を改善する上で、他分野で取り組むことでより視野を広く持ち、社会に受け入れやすい形への発展が期待できる。本講義では耳鼻咽喉科としての取り組みと、医療における産官学連携の意義に関して説明する。	録画配信	岡山大学 片岡 祐子
		皮膚科概論	皮膚は人体の最外層に位置する臓器であり、①水分の喪失や透過を防ぐ、②体温を調節する、③微生物や物理化学的な刺激から生体を守る、 ④感覚器としての役割を果たすなど、様々な生理学的機能を有している。 皮膚科では感染症、炎症性疾患、腫瘍、遺伝性疾患、アレルギー性疾患、膠原病、薬疹など皮膚に症状のあらわれるすべての疾患を診療対象とする。 そのため、皮膚科医は内科的な視点、外科的な視点、そして皮膚病理医としての視点も併せ持ちながら、診療を行っている。	録画配信	岡山大学 川上 佳夫

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
1.ヘルスケア関連分野の教育プログラム	臨床概論（臓器別疾患、治療）	臨床遺伝学概論	近年のゲノム医学の急速な発展により、ヒトの多様性や病気の原因がゲノム/遺伝子レベルで明らかになりつつあります。これらの成果は、遺伝子関連検査、疾患予防、個別化治療に活用されています。ゲノム医学/ゲノム医療は、難病・希少疾患、がん、周産期などの幅広い疾患を対象としており、未発症のヒトも対象となります。遺伝情報は、医療者、当事者、血縁者の間で共有されることで、最大限の意義を発揮します。ゲノム医学の進歩により、疾患の診断・治療だけでなく、未病の段階からも遺伝情報を活用する時代が少しずつはじまっています。また、ゲノム医学/ゲノム医療の進歩に伴い、倫理的・法的・社会的課題（ELSI）も重要なテーマとなっています。本講義では、医療のDX化導入によって大きなメリットが期待される臨床遺伝学分野の現状と課題についてお話しします。	録画配信	岡山大学 岡崎 哲也
		救急医学概論	災害医療や救急医療は、軍陣医療に起源をもつ。他の医学領域と違って、時間制約、使用できる医療資源の制限、空間的制約がある状況で医療活動を行わなければならない。しかし、「制約」の存在は、その改善という需要へとアイデアがつながる。また、産業の一角として、デジタルヘルスを捉えるために、経済学的・商学的思考も加味した講義内容としたい。自由な発想で、災害医療や救急医療のIT化をデザインできるようになることを目標とする。講義後に10分程度の質疑応答の時間を設けます。	LIVE配信 （１月以降）	医誠会 国際総合病院 中尾 博之
		麻酔・蘇生学概論（急性期・重症系のデジタルイノベーション）	麻酔集中治療領域はデータリッチな分野である。我々は日常の診療においても、手術室や集中治療室で働いている。患者連続的なモニタリングを受けており、常に数値によって評価を受けている。我々医師は場面場面で表示されている数値を見て患者評価を行うが、本来連続データはトレンドや変動を見て評価されるべきである。もちろん現在でもある程度のグラフ化やTable表示は可能であるが、この領域ではまだまだ連続データの有効性が生かし切れていないと考える。近年、我々もAIを用いた予測モデルの作成などの研究も行っており、最近のトレンドと、自験を含めて重症系のデジタルヘルス活用を紹介していきたい。講義後に10分程度の質疑応答の時間を設けます。	LIVE配信 （１月以降）	岡山大学 森松 博史
		臨床歯学概論	本講義では、歯科でのデジタルトランスフォーメーション(DX)に対する取り組みについてご紹介していきます。歯科は歯、骨などの硬組織を対象にした治療のウエイトが多い分野です。これらの3次元データは、これからの診療に新しい可能性を広げます。光学印象などで得られたデータからCAD/CAMにより口腔内の装置を作ることはすでに進められていることですが、診断、治療計画、新しい装置の開発など多岐に亘ってその応用が始まっています。また、大学独自の教育にもこれらDX化を応用した講義、実習も行われており、それらの内容もお話します。講義後に10分程度の質疑応答の時間を設けます。	LIVE配信 （１月以降）	岡山大学 伊原木　聰一郎

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
1.ヘルスケア関連分野の教育プログラム	臨床概論	臨床薬学概論	本講義では、データサイエンスを活用した創薬や治験、ゲノム医療等の社会実装例に基づきながら、医療分野におけるデータサイエンスの役割と意義について解説します。また、医療AI/IoTを活用した領域における医療現場の課題解決事例および最新の研究内容についても説明します。それらの背景を元に、私達が展開している大規模医療情報データベースを基盤とするデータサイエンスを活用した創薬・育薬研究や薬剤師業務のDX化について紹介します。講義後に10分程度の質疑応答の時間を設けます。	LIVE配信 （１月以降）	岡山大学 田中　雄太
		公衆衛生概論	社会全体の健康を守る「公衆衛生学」の視点から、これからの健康課題を考えます。市民の中の少数である有所見者や患者だけでなく、圧倒的多数を占める一般市民の健康リスクを全体的に下げる「ポピュレーションストラテジー」の重要性を解説します。新たな薬や治療法でなく、保健指導や生活習慣の見直し、制度を活用した社会のあり方を変えることで集団への効果を分かりやすく紹介します。新たな健康課題が発生した際に、集団へのアプローチにより解決への道筋がつくヒントになる可能性があります。講義後に10分程度の質疑応答の時間を設けます。	LIVE配信 （１月以降）	岡山大学 神田　秀幸
2.IT関連分野の教育プログラム	IT技術基礎	IT技術と関連産業の概要	IT技術とは何か、どのように開発・普及・発展してきたのか、またIT関連産業はいかに成長・形成されてきたのか。本講義ではIT技術と関連産業について科学技術史の視点から概説する。	録画配信	岡山大学 吉葉 恭行
		医用画像情報処理	本講義では、画像情報処理技術（画像処理、人工知能（AI）、仮想・複合現実など）を使って治療・診断を支援するシステムに関して講義する。具体的には、まず、体内部の情報を計測・画像化する代表的な装置である、コンピュータ断層撮影(Computed Tomography: CT）や磁気共鳴画像計測(Magnetic Resonance Imaging: MRI)の計測原理を述べる。 また、CTやMRIから得られる画像を使って、人体組織の3次元形状を復元する技術を説明する。そして、その形状情報やAIを組み合わせた医療支援を、講師の研究グループの研究成果を示しながら紹介する。	録画配信	熊本大学 諸岡 健一
		ヒューマンインタフェース基礎	ユーザが装置を使う場合に、ユーザと装置の間に介在するヒューマンインタフェース（HI）の基礎を講述する。まず、HIの例を挙げながら、HIの重要な２つの役割である 1) 利用者の意図の装置への伝達と、2) 装置の状態の利用者への表示を説明する。 そして、人間の身体的および認知的特性に整合した「人に優しい」HIとするために必要な知識として、人間の特性、HIの設計と実装における考え方、基本概念や、アプローチを概説する。	録画配信	岡山県立大学 五福 明夫

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
2.IT関連分野の教育プログラム	IT技術基礎	情報・IoTセキュリティ	IoT機器やウェアラブル端末は、医療・ヘルスケア分野でも急速に普及していますが、計算資源や電力が限られるため、データ保護のための暗号化や鍵交換をそのまま実装することは容易ではありません。本講義では、まずIoTを取り巻く近年のセキュリティ動向（ランサムウェア被害、サプライチェーンリスク、各種セキュリティガイドライン）を概観したうえで、限られた資源の下で安全性を確保するための 軽量暗号・鍵交換・乱数生成といった要素技術の実装について紹介します。さらに、サイドチャネル攻撃などの攻撃実験による安全性評価の考え方や、耐量子計算機暗号への移行動向にも触れ、医療機器・医療情報システムを扱う際に 押さえておくべき観点を整理します。	録画配信	岡山大学 野上　保之
		センシング工学の基礎	我々の身の回りの物理現象を電気信号に変換するセンサは、IoTで用いられるデータを取得する際に必須のデバイスであり、近年様々な高機能なセンサが開発されています。本講義では、一般的に使用されている各種センサとそのしくみの概説、センサを用いた高度なセンシング例の紹介、センサを用いて取得した電気信号のデジタル信号への変換など、IoTで活用されているセンシング技術を理解する上で必要な基礎的な内容を説明します。	録画配信	同志社大学 堺 健司
	IOT・AI活用	IoT機器構築例	様々なものがインターネットに繋がるIoT（Internet of Things）という言葉が社会で一般に使われるようになっていますが、具体的に自分でIoT機器を作ろうとする場合にどのようなものになるのかをイメージすることができれば、関連する技術や問題に取り組みやすくなることが期待されます。本講義では、IoT機器の構築例としてレスキューロボット（移動する監視カメラ）を紹介します。具体的にはRaspberry Piのセットアップとしてosをインストールするところから、動画配信ソフトのインストール、さらにCAN通信やROS環境の構築まで紹介いたします。	録画配信	岡山大学 亀川 哲志
		実例を通した医療機器開発と事業化概論	我々は大阪大学における産学連携活動を通して仮想現実（VR）技術を応用したリハビリテーション用医療機器「mediVRカグラ」や、非侵襲的陽圧換気用の人工呼吸器用マスク「javalla」を開発し製造販売を行っている。 本講演ではIT技術や、日本のモノづくり産業の医療応用の実例を通して、医工連携におけるニーズの掘り起こしから開発、特許戦略、上市から臨床での普及に至る過程を概説することで、聴講者が医療機器開発の事業化の流れを理解する一助としたい。	録画配信	(株)mediVR 原 正彦

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
2.IT関連分野の教育プログラム	IOT・AI活用	ヘルスケア分野におけるAI・ロボティクスの社会実装 ～ 技術開発から現場導入・事業化まで～	AIやロボティクスの技術が進歩しても、優れた技術がそのままヘルスケアの現場で使われるとは限りません。本講義では、認知症ケアを支援するAI「DeCaAI」とコミュニケーションロボットとの連携を事例に、社会課題の発見からAI開発、研究・実証、現場導入までのプロセスを紹介します。さらに、データ連携、既存システム、現場オペレーション、制度、事業性など、社会実装を左右する様々な要因を実例から考察します。技術を「何ができるか」だけでなく、「誰のどの意思決定を変え、どう社会に定着させるか」という視点から捉え、デジタルヘルスの社会実装を考えます。	LIVE配信 （１月以降）	ゲオム（株） 矢沢　一真
		ヘルスケア分野における音声処理技術活用	音声は人間にとって最も自然かつ効率的なコミュニケーション手段です．近年，音声認識や音声合成をはじめとする音声処理技術は急速に発展し，ヘルスケア分野においてもさまざまな活用が期待されています．本講義では，まずヘルスケア分野における音声処理技術の活用例や可能性について概説します．その後，音声認識技術を中心に，その基本的な仕組みや発展の歴史について分かりやすく解説するとともに，深層学習の導入や大規模事前学習モデルの活用など，近年の技術トレンドについて紹介します．	録画配信	岡山大学 小川　厚徳
		実験データ解析のための統計入門	実験データ処理のための統計の基礎、特に統計値やグラフの意味理解や解釈、統計的検定の実施方法や解釈・実験デザインについて学ぶ。統計の基礎理論の証明等ではなく、あくまでも実践的なデータ・統計処理方法について学ぶ。 また、実際のデータ処理を説明する。	録画配信	岡山大学 中澤　篤志
		ウェアラブルデバイスの臨床応用	スマートウォッチやスマートリングに代表されるウェアラブルデバイスは、日常生活のなかで身体活動や睡眠などの生体情報を連続的かつ客観的に記録できる。本講義では、まずウェアラブルデバイスの種類と普及の現状、スポーツ分野での活用例を概観し、続いて医療分野への応用を取り上げる。従来の臨床検査との違いを整理したうえで、皮膚疾患におけるかゆみの評価を例に、実際の測定と検証の進め方を紹介する。さらに、デジタルバイオマーカーという概念を導入し、臨床や治験でどの程度使われているかを示す。技術的な予備知識は前提とせず、期待される効果と、データ品質や装着継続率などの課題の双方を考える。 講義後に10分程度の質疑応答の時間を設けます。	LIVE配信 （１月以降）	岡山大学 森田　瑞樹

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
2.IT関連分野の教育プログラム	IOT・AI活用	ヘルスケアデータの取得と活用	本講義では、大規模な住民健診や健康調査を例に、ヘルスケアデータがどのように取得・蓄積され、研究に活用されているのかを学びます。健診で得られる多様な健康情報を組み合わせることで、生活習慣や身体状態、疾病との関連をどのように捉え、新たな知見につなげていくのかを、実際の研究事例を交えて解説します。さらに、得られた知見を疾病予防や健康づくりへ活用する考え方について紹介し、ヘルスケアデータを研究や社会に生かすための視点を身につけます。	録画配信	岡山大学 横山　慎太朗
	実践・演習	Pythonプログラミングと ビッグデータ構築・解析 （座学+演習）	多様で大量なデータに基づいて問題を解決するアプローチは社会実装において強力な方法論となりつつある。 本講義では、プログラミング言語Pythonによる演習を通して、 ビッグデータの構築と解析の基礎的な内容を紹介する。 本演習（7時間）は、教員からの一方的な講義ではなく、学生同士および教員との意見交換や共同作業を通じて学びを深める双方向型の講義です。	録画 +LIVE配信 (1月以降)	岡山理科大学 横平 徳美
3.経営・起業に関する教育プログラム	起業基礎	アントレプレナーシップ	イノベーション創出への旅はあらゆる障壁を乗り越え様々な偶発的な展開を経て具現化される長い道のりです。こうした予測不能な環境下にてイノベーション創出を担う起業家が持つべきマインドセットについて修得します。熟達起業家の意思決定原理である「エフェクチュエーション」、芸術における思考を事業化に応用する「アートシンキング」を中心に、今必要とされる「起業家精神（アントレプレナーシップ）」について概説します。	LIVE配信 (1月以降)	神戸大学 佐藤 正和
		起業・イノベーションの 市場動向	日本のみならず世界的にスタートアップやイノベーションに対して巨額の投資マネーが流入しています。これだけ大きな期待が集まっている歴史的背景・経緯や現在のスタートアップ市場の概況などを解説します。又、今後の起業や新規事業立案の着想のヒントとなる成長市場の予測・展望、社会的ニーズの変化、太古から変化しない人間の根源的ニーズなどについても解説します。	録画配信	名古屋大学 松本 修平

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
3．経営・起業に関する教育プログラム	経営基礎	経営学基礎とビジネスモデル論	目的：経営学の概要をビジネスモデルの視点から学ぶ 内容：経営学は1つの学問ではなく「経営戦略」「マーケティング」「オペレーション」「会計・財務」「組織・リーダーシップ」など専門分野の束に過ぎません。この講義ではそれらの基礎をバラバラに学ぶのではなく、「ビジネスモデル」の視点で再構築し、4つの要素（ターゲット、バリュー、ケイパビリティ、収益モデル）毎に学んでいきます。多くの事例や演習がありますのでお楽しみに。 教科書：『新しい経営学』 事前課題：教科書をざっと読んでおくこと	LIVE配信 （１月以降）	KIT虎ノ門 大学院 三谷 宏治
		経営・事業戦略の概要	目的：経営戦略論の概要を歴史的発展とともに学ぶ 内容：戦略には数千年の歴史がありますが、経営戦略論にはたった百数十年の歴史しかありません。テイラー、メイヨー、フェイヨルが「経営」という概念をつくり、バーナードが組織共通の目的を「経営戦略」と名付けました。以来100年。さまざまな経営戦略論が生まれ廃れていきました。この講義では最新の経営戦略論に至るまでをカバーしていますが、なぜ、なんのためにそれらが生まれたのかを理解することで、経営戦略論の現実への応用が可能になります。 教科書：『経営戦略全史〔完全版〕』（マンガ版でも可） 事前課題：教科書をざっと読んでおくこと	LIVE配信 （１月以降）	KIT虎ノ門 大学院 三谷 宏治
		ビジネスモデルの視点に基づく事業戦略ケーススタディ	目的:実際のビジネス事例をこれまでの学びを用いて分析・理解する 内容:この講義ではフィットネス業界の諸企業と、小児科クリニックを題材に、実際に調べ、情報を整理し、それらのビジネスモデルを解明していきます。当日、各自がネット検索など情報収集を行い、それを元にチームディスカッションをします。そこでどれだけそこまでの学び（経営学・経営戦略論・ビジネスモデルなど）を使えるかがチャレンジです。 教科書：『ビジネスモデル全史〔完全版〕』（マンガ版でも可） 事前課題：教科書をざっと読んでおくこと。 カーブスとCAPS CLINICのHPを見ておくこと。	LIVE配信 （１月以降）	KIT虎ノ門 大学院 三谷 宏治

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
3.経営・起業に関する教育プログラム	経営基礎	ヘルスケア分野の事業化戦略	国の戦略分野でありながら事業化が難しいとされるヘルスケア分野（保険外の医療・介護ビジネス）。公的保険の存在や顧客の行動変容の難しさ等が事業化のハードルになっています。そうしたハードルを踏まえ、どのようにビジネスモデルを構築すべきなのか、事例を参考にして学びます。	LIVE配信 （１月以降）	岡山大学 志水 武史
		経営分析・戦略策定 ツールの使い方	経営分析や経営戦略策定の際に有効な各種ツール、フレームワークの利活用方法を実践的に学びます。特にオープンイノベーションをはじめとする近年のイノベーション・経営戦略に重点を置きます。	LIVE配信 （１月以降）	岡山大学 志水 武史
		ヘルスケア・マーケティング	ヘルスケアに係る商材開発や市場創造、顧客獲得や販路開拓に向けたマーケティングの理論とその手法について解説する。項目として、その導入に①分析アプローチ(インサイト探索)と非分析アプローチ(アイデア発想)、それをもとに②商材価値の最大化・差別化のためのブランディング戦略と広告プロモーション、③社会における課題化・話題化のためのイシューイング戦略とＰＲキャンペーン、④顧客に向けた価値の個別化・最適化のためのターゲティング戦略とアルゴリズム化、等について解説。	録画配信	(株)ヘルスケア・ビジネスナレッジ 西根 英一
		企業財務 （資金調達、資本政策、会計）	ビジネスを推進する上で、資金調達は重要な要素です。金融機関からの借り入れや外部投資家からの出資の違いなど、会社の規模の違いに分けて解説します。今までスタートアップ支援で培った実務経験を基に、経営支配権の考え方や資本政策実行における各手段の説明のみならず、資本政策策定時の留意点や資金調達を行う際の注意すべき点なども説明する予定です。また、資本政策を考える上で最低限押さえておきたい税務面の留意点も解説します。	LIVE配信 （１月以降）	EY新日本有限責任監査法人 大野 大
		企業組織 （人事、チームビルディング）	デジタルヘルスの新規事業においては、ヘルスケア、ITという全く異なる分野の人材が必要になってくる。事業を立ち上げ、推進していく中で、そうしたバックボーンの文化が異なるメンバーでのチーム構築をどうしているか、チームをまとめる人材はどのような知見、能力、スキルが必要なのか、その必要性等、実例を交えながら、デジタルヘルス領域の新規事業立ち上げに関心のある皆様に、ヘルスケア、IT、経営の各分野の人材におけるチームビルディングについて理解を深めデジタルヘルス起業に役立てていただく。	録画配信	(株)Yuimedi グライムス 英美里

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」カリキュラム

プログラム分類		講義名	講義概要	講義形式	担当講師
4.実践的プログラム	課題抽出演習	ヘルスケア・生活関連分野における課題抽出演習	ヘルスケアビジネス創出には、ヘルスケア・生活関連分野における課題の深掘りが重要です。認知症やフレイル、生活習慣病の予防等、国や自治体が提示するマクロ的な課題を解決できるビジネスアイデアであっても事業化が難しい面もあります。ニッチだが当事者にとって切実な課題を深掘りすることが事業化の重要なポイントになります。課題の深掘りをロジカル思考やデザイン思考等を用いてグループワーク形式で実践的に行います。	対面 （１月以降）	岡山大学 志水 武史
	事例紹介	デジタルヘルスの社会実装 ―AIスタートアップの実践から	デジタルヘルスのアイデアを「面白い技術」で終わらせず、実際に患者や医療現場へ届けるには何が必要なのでしょうか。本講義では、I'mbesideyouでの実践を題材に、米国での医療機関設立やFDAとの交渉、インドでの患者データ収集、AMEDプロジェクトなどの経験を紹介します。プロダクト開発、規制、臨床・研究、データ収集、海外展開、事業化など、実際に直面した意思決定や失敗も交えながら、デジタルヘルスを社会実装するプロセスを参加者の皆さんと考えます。	対面 （１月以降）	岡山大学 安藤　高太朗
	事業アイデア創出演習	IT×ヘルスケアによる 事業アイデア創出演習	イノベーティブな事業アイデアを創出するには、これまで考えたことのない異なる要素の組み合わせが重要です。また、組み合わせの要素・ナレッジを幅広く探索することも必要です。多様なバックグラウンドを有する受講者同士のワークショップを通じて、多種多様なデジタルヘルス分野の事業アイデアを創出します。	対面 （１月以降）	岡山大学 志水 武史

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：安藤　高太朗（あんどう　こうたろう） 所属：岡山大学 スタートアップ・ベンチャー創出本部 役職：コーディネーター（スタートアップ）（特任） 	九州大学大学院修了後、NTTデータでの勤務を経て、AIスタートアップI'mbesideyouを共同創業。映像・音声などから人の状態やコミュニケーションを捉えるマルチモーダルAIの社会実装に取り組んできました。米国での医療機関設立やFDAとの交渉、インドでの患者データ収集、AMEDプロジェクトの推進など、技術開発だけでなく、医療・規制・研究・事業が交わる現場を国内外で経験。現在は岡山大学で研究シーズの社会実装と大学発スタートアップ創出に取り組んでいます。	■ デジタルヘルスの社会実装―AIスタートアップの実践から
氏名：市原　英基（いちはら　えいき） 所属：岡山大学 学術研究院医療開発領域 腫瘍センター 役職等：准教授 	約20年間 呼吸器内科医として診療を行っておりますが、 その間、画像診断、救急診療、肺がん診療、緩和ケア、COVID-19診療など様々な分野に取り組んできました。 急速に拡大する医学知識になんとか遅れをとらないように日々悪戦苦闘しております。	■ 呼吸器内科概論
氏名：伊原木　聰一郎（いばらぎ　そういちろう） 所属：岡山大学学術研究院医歯薬学域 口腔顎顔面外科学 役職等：教授 	＜略　歴＞ 2003年 3月　岡山大学歯学部　卒業 2007年 3月　岡山大学大学院医歯学総合研究科　修了 2007年5月 - 2009年3月 ハーバード大学医学部病理学講座 博士研究員 2010年10月 - 2010年12月 横浜市立大学附属病院 歯科口腔外科 2012年10月 - 2013年3月 岡山大学病院 高度救命救急センター 助教 2020年2月 - 2020年4月 群馬大学医学部附属病院 形成外科 2018年5月 - 2022年10月 岡山大学学術研究院口腔顎顔面外科学分野 准教授 2022年11月 - 現在 岡山大学学術研究院 口腔顎顔面外科学分野 教授 ＜所属学会，役職など＞ 日本口腔外科学会　代議員 日本口腔腫瘍学会　理事，口腔癌診療ガイドライン改定委員会 委員 日本頭頸部癌学会　代議員 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム　歯科WG長 岡山県がん診療連携協議会 歯科部会 会長 岡山県病院歯科医会 会長	■ 臨床歯学概論

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師	略歴	担当講義名
氏名：大野　大（おおの　だい） 所属：EY新日本有限責任監査法人 企業成長サポートセンター 役職等：ディレクター 	国内証券会社公開引受部に配属され、その後米国証券会社東京支店投資銀行部門立ち上げに参画し、機関投資家から未上場企業への出資のアレンジ、M&AのFA、ロードショー、ブロックトレーディングを行い、その後、中央青山監査法人（当時）株式公開部に入所し、2007年に新日本監査法人入所。IPO業務を一貫して行い、IPO後の機関投資家向けのビジネスを行った経験から、IPO後の株主作りを考慮に入れた資本政策の助言を行う。	■ 企業財務
氏名：岡崎　哲也(おかざき　てつや) 所属：岡山大学 学術研究院医歯薬学域 臨床遺伝子医療学分野 役職等:特任講師 	私は、小児科専門医、小児神経専門医、出生前コンサルト小児科医、臨床遺伝専門医・指導医の資格を持ち、臨床遺伝の診療、研究、教育に従事しています。 2005年に東邦大学医学部を卒業後、東邦大学医療センター大森病院で医師としてのキャリアをスタートさせました。 その後、日本医科大学付属病院および多摩永山病院、さいたま赤十字病院で小児科医としての経験を積み、国立精神・神経医療研究センター病院では2年間小児神経科レジデントとして勤務しました。 2014年に鳥取大学医学部脳神経小児科/同附属病院遺伝子診療科に異動し、 2019年からは同大学医学部附属病院遺伝子診療科助教 2024年1月からは現職に就き、臨床遺伝の分野で専門的な診療、研究、教育を行っています。	■臨床遺伝学概論
氏名：小川　厚徳（おがわ　あつのり） 所属：岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 役職等：教授 	1998年に名古屋大学大学院修士課程を修了後，NTTに入社. 2026年より岡山大学教授．約30年にわたり，音声認識を中心とする音声言語処理研究に従事．2008年，音声認識技術の高精度化・実用化に関する研究により，名古屋大学で博士号を取得．これまでに，査読付き雑誌論文27編，査読付き国際会議論文129編，国内外特許登録81件，科学研究費助成事業 基盤研究（B）研究代表者1件などの業績を有する．IEEE Signal Processing Society (SPS) 2024 Outstanding Editorial Board Member Award，IEEE ASRU 2015 Best Paper Award Honorable Mentionなど，受賞歴14件．現在，IEEE SPS Speech and Language Processing Technical Committee委員.	■ヘルスケア分野における音声処理技術活用

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師	略歴	担当講義名
氏名：笠原　真悟（かさはら　しんご） 所属：岡山大学学術研究院医歯薬学域 役職等:教授 	平成元年に大学卒業以来、心臓血管外科、特に先天性心疾患の手術治療を中心に行っております。オーストラリア、ニュージーランドで外科医として約5年間勤務後、助教、講師を経て、2013年に心臓血管外科の寄附講座である高齢社会医療、介護機器推進講座の教授となりました。この在任期間中に生体モニタリング機器としてマットセンサー、リアルタイム心電図の開発を行い、遠隔医療、在宅医療に携わりました。2017年に心臓血管外科主任教授となり、現在に至っております。 現在心臓血管外科関連の評議員、理事として学会に尽力している傍ら、遠隔医療学会の理事として2024年に全国大会を開催しました。 また、2025年より遠隔医療学会の副理事長に就任いたしました。	■ 心臓血管外科概論
氏名：片岡　祐子（かたおか　ゆうこ） 所属：岡山大学 学術研究院教育研究マネジメント領域 役職等：准教授 	1998年3月　岡山大学医学部医学科　卒業 1998年4月　岡山大学医学部　耳鼻咽喉科学教室入局 2002年12月～岡山大学病院　耳鼻咽喉科勤務　　2017年4月～同院 講師 2022年9月～聴覚支援センター　准教授　センター長補佐 岡山大学ユネスコチェア　副チェア、岡山大学ダイバーシティ推進本部　副室長 岡山大学病院ダイバーシティ推進センター　副センター長 専門医：耳鼻咽喉科専門医、耳鼻咽喉科専門研修指導医、臨床遺伝専門医、耳科手術暫定指導医。 日本小児耳鼻咽喉科学会理事　日本耳科学会　ダイバーシティ推進委員会委員長日本耳鼻咽喉科学会　会報編集委員 モットーは、「医療には限界があり、それを補うのが療育・教育、支えるのが福祉、開発。　医療者として医療と療・教育、福祉、開発を繋ぐことを目標に、情報を発信していくこと」。　令和4-6年、AMED「聴覚障害者の災害時・緊急時における緊急通知音振動変換装置および情報共有システムの有用性の検討」に採択され現在開発進行中。	■ 耳鼻咽喉科概論
氏名：加藤　浩晃（かとう　ひろあき） 所属：一般社団法人 日本医療ベンチャー協会 役職等：理事 	医師、MBA、元厚労省官僚という異色の経歴を持つ医療イノベーター。眼科専門医として臨床最前線を経験後、厚生労働省で政策立案に携わる。現在はデジタルハリウッド大学院特任教授、東京医科歯科大学臨床教授を務めるほか、日本初のAI新医療機器を開発したアイリス株式会社の共同創業者。医療現場、制度、ビジネスを横断的に理解し、デジタルヘルス分野で革新的な事業を次々と生み出す。著書『医療4.0』シリーズは医療DXのバイブルとして注目を集める。	■ デジタルヘルス産業・市場の概況

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：亀川　哲志（かめがわ　てつし） 所属：岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域 役職等：教授 	2004年東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了. 同年，NPO国際レスキューシステム研究機構研究員を経て，2006年より岡山大学大学院自然科学研究科助手，2007年同助教，2008年同講師，2020年より岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科准教授，2024年より岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域教授となり，現在に至る．この間，2004年ローマ大学客員研究員，2012年カーネギーメロン大学客員研究員．ヘビ型ロボット，レスキューロボット，医療ロボットの研究開発に従事. 日本ロボット学会，日本機械学会，計測自動制御学会，日本コンピューター外科学会の会員．博士（工学）	■ IoT機器構築例
氏名：川上　佳夫（かわかみ　よしお） 所属：岡山大学学術研究院医歯薬学域 役職等：講師 	1997年に旭川医科大学を卒業し、福島県立医科大学で10年間皮膚科医の臨床を幅広く学びました。その後ミュンヘン大学で1年6か月間、皮膚の自然免疫を学んでから、岡山市立市民病院、倉敷成人病センターで皮膚科医として働きました。2022年4月から岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　皮膚科学分野で乾癬や炎症性皮膚疾患の臨床・研究を行っています。	■皮膚科概論
氏名：河原　祥朗（かわはら　よしろう） 所属：岡山大学学術研究院医歯薬学域 役職等：教授 	平成　２年　４月　岡山大学医学部附属病院第一内科入局 平成　２年１０月　福山市民病院内科 平成　４年１０月　津山中央病院内科 平成　６年１０月　岡山大学医学部付属病院消化器肝臓内科医員 平成　７年１０月　岡山大学医学部研究生（消化器肝臓内科講座・分野） 平成１１年　２月　岡山大学医学部附属病院本島分室助教 平成１１年　８月　津山中央病院消化器科、内視鏡センター 平成１７年１０月　岡山大学病院助教（光学医療診療部） 平成２３年　１月　岡山大学病院講師（光学医療診療部） 平成２９年　４月　岡山大学病院准教授（光学医療診療部） 平成３１年　４月　岡山大学 教授（実践地域内視鏡学講座）	■消化器内科概論

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：神田　秀幸（かんだ　ひでゆき） 所属：岡山大学学術研究院医歯薬学域 公衆衛生学 役職等：教授 	1997年島根医科大学（現島根大学）卒。国立公衆衛生院、滋賀医科大学大学院を修了後、米国Johns Hopkins大学公衆衛生学部留学、福島県立医科大学衛生学講座助手、同講師、横浜市立大学社会予防医学教室講師、島根大学環境保健医学講座教授を経て、2019年より岡山大学公衆衛生学教授として現在に至る。専門：公衆衛生学、依存症の予防医学。日本アルコール・アディクション医学会前理事長。	■公衆衛生概論
氏名：グライムス　英美里 （ぐらいむす　えみり） 所属：(株)Yuimedi 役職等：CEO 	京都大学薬学部卒業。薬剤師免許取得後、武田薬品株式会社にて臨床開発に従事。産官学を通じた日本の医療システムの改善に興味を持ち、スイスチューリヒ工科大学で医学産業薬学のマスターを取得。その後、マッキンゼーアンドカンパニーにて、コンサルタントとして経営的視点を学ぶ。医療×データに関するデジタルソリューションを開発するため、2020年11月に株式会社Yuimediを創業。	■企業組織
氏名：香田　将英（こうだ　まさひで） 所属：東北大学大学院医学系研究科 役職等：講師 	私は、多くの人々の心の健康を支えることを目指し、メンタルヘルス、自殺予防、災害精神医学を研究のスコープとしています。現在は、地域医療の分野で教育に力を入れて活動しています。最近の研究では、AIを活用した医療面接のシミュレーションプログラムを作成し、その教育効果を検証しました(Yamamoto A, et al., 2024)。AI技術やデジタルツールを活用した教育や研究を通して、これらの新たな技術が精神科医療をはじめ、社会にどのような革新をもたらすかを探求しています。今回の講義では、未来の医療における可能性を共に考えていきたいと思います。宜しくお願いいたします。	■精神科概論

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：小坂田　陽介（おさかだ　ようすけ） 所属：岡山大学学術研究院医療開発領域 役職等：助教 	岡山大学脳神経内科学の小坂田陽介です。脳神経内科医が担当する疾患は認知症やパーキンソン病、脳梗塞、てんかん、末梢神経障害など多岐にわたります。 現在、脳神経内科領域では、抗体療法や核酸医薬、幹細胞移植など新しい治療法の開発が急速に進んできており、これまで治療法がなかった病気の一部も治療可能になってきました。 介護やリハビリテーション分野との関わりも深く、神経疾患領域は、診断支援や遠隔医療などのデジタル分野においても先駆けとなる可能性を秘めていると思います。	■脳神経内科
氏名：五福　明夫（ごふく　あきお） 所属：岡山県立大学 役職等：理事（学長） 岡山大学特命教授（研究） 岡山大学名誉教授 	1981年3年京都大学工学部電気工学第二学科卒業。 1983年3月京都大学大学院工学研究科電気工学第二専攻博士前期課程修了 1984年4月京都大学原子エネルギー研究所助手。 1994年12月岡山大学工学部機械工学科助教授。 その後、システム工学科助教授、教授、大学院自然科学研究科教授、大学院ヘルスシステム統合科学研究科教授・研究科長を経て、 2023年3月岡山大学を定年退職。現在、岡山県立大学理事（学長）、岡山大学名誉教授、特命教授（研究）。ヒューマンマシンインタフェース、メカトロニクスを主要な専門分野としている。 現在、機能モデリングと人工知能を応用した大規模工業プラントの運転員支援システム、および、電磁型の球面モータとその出力トルク増大のための球面減速機の研究に携わっている。	■ ヒューマンインタフェース基礎 ■ ビッグデータ構築・解析・AI活用

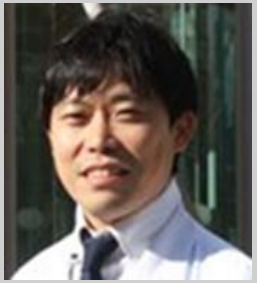
岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：堺　健司（さかい　けんじ） 所属：同志社大学 役職等：教授 	2010年３月、同志社大学大学院博士後期課程修了。博士（工学）。 2009年4月～2010年8月、日本学術振興会特別研究員。 2010年９月、岡山大学大学院自然科学研究科　助教。 2020年4月、岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科准教授。 現在は、同志社大学理工学部電子工学科　教授。 これまでに磁性材料の開発、計測システムの開発に関する研究に従事。 現在は磁気による高度非破壊検査技術の開発や超高感度磁気センサを用いた計測システムの開発と物性評価への応用、磁気ナノ粒子を用いた免疫検査法に関する研究に従事。	■ センシング学の基礎
氏名：佐藤　正和（さとう　まさかず） 所属：神戸大学大学院 経営学研究科 役職等：特命教授 	学生起業を皮切りに様々な役職で大小20の創業・事業開発とそれらに伴う売却・株式公開の経験を持つ。近年では最高級日本茶を扱うブランド 北川半兵衛(宇治茶流通トップシェア企業とのJV)や、ヘルスケア系ベンチャー(介護・鍼灸整骨院業界。現東証一部)などがある。また、このほかにも、100年以上続く京都の辻利グループといった長寿企業(ファミリービジネス)から設立後数年の上場準備企業(スタートアップ)まで幅広いジャンルの企業にてブランド顧問、戦略顧問、社外役員などを務める。	■ アントレプレナーシップ
氏名：志水　武史（しみず　たけし） 所属：岡山大学学術研究院 ヘルスシステム統合科学学域 役職等：准教授（特任） 研究・イノベーション共創機構 スタートアップ・ベンチャー創出本部 本部長 	生命保険協会、外資系保険会社勤務等を経て、1999年から（株）日本総合研究所勤務（2004~5年に伊藤忠商事出向）を経て2019年２月より現職。 日本総合研究所在籍中は、経済産業省のヘルスケア関連ビジネス事業化支援事業に長年関与。現在に至るまで企業や自治体等におけるヘルスケアビジネス創出の取り組みを支援。専門分野はイノベーション、経営戦略、ヘルスケアビジネス、地域活性化。岡山大学ではアントレプレナー関連講義を担当するほか、オープンイノベーション・プラットフォームである「岡山リビングラボ」を企画運営。様々なステークホルダーの連繋の下、ヘルスケアビジネスの創出に向けた取り組みを行っている。	■ オリエンテーション ■ 経営分析・戦略策定ツールの使い方 ■ ヘルスケア分野の事業化戦略 ■ ヘルスケア・生活関連分野における課題抽出演習 ■ IT×ヘルスケアによる事業アイデア創出演習

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：髙成　啓介 （たかなり　けいすけ） 所属：岡山大学 学術研究院医歯薬学域 形成再建外科学 役職等：教授 	デジタルヘルス人材育成プログラムを受講されている皆様、はじめまして。 岡山大学形成再建外科の高成啓介と申します。形成再建外科は腫瘍切除や外傷などの組織欠損が起こった時に機能や整容性をなるべく損なわないようにするために移植手術を行ったり、小児先天異常（口唇や耳、体幹、四肢の変形など）に対する形成手術などを行う科です。「Quality of life（QOL）の外科」とも言われます。本講義では、形成外科の歴史や、基本的な手技、現在取り組んでいることなどについて話したいと思います。興味がある方はぜひ受講してください。	■形成外科概論
氏名：武内　俊樹 （たけのうち　としき） 所属：岡山大学 学術研究院医歯薬学域 小児発達病因病態学 役職等：教授 	これまで東京、ボストンおよびニューヨークで小児科専門医・小児神経科専門医の大学病院で診療、教育、研究を行い、2024年に岡山大学病院に着任いたしました。 子どもの発達、神経疾患を中心に、周産期脳障害とゲノムの異常によって発症する希少遺伝性疾患の診断と治療を専門にしています。新しいデジタル技術を医療に役立て、子どもたちの明るい未来を作るために貢献できればと考えています。	■小児神経科概論
氏名：田中　將太 （たなか　しょうた） 所属：岡山大学 学術研究院医歯薬学域 脳神経科学分野 役職等：教授 	東京大学医学部医学科を卒業後、同大脳神経外科学教室に入局し、東京大学医学部附属病院のほか、NTT東日本関東病院や公立昭和病院などで勤務。その後、米国有数の総合医療機関であるメイヨー・クリニックとハーバード大学関連のマサチューセッツ総合病院・ダナファーバー癌研究所に留学し、臨床及び研究に従事した。 2012年に帰国し東京大学医学部附属病院に勤務、2021年に東京大大学院医学系研究科脳神経外科学講師に就任、2024年1月に岡山大学学術研究院医師薬学域脳神経外科学分野教授に就任。 日本脳神経外科学会理事、日本脳神経外科コングレス理事、日本脳腫瘍学会理事、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）脳腫瘍グループ代表委員・コアメンバー、成人膠芽腫診療ガイドライン作成委員長なども務めている。	■脳神経外科概論

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：田中　真（たなか　しん） 所属：岡山大学 学術研究院医療開発領域 臓器移植医療センター 役職等：助教 	2010年3月　岡山大学医学部医学科　卒業 2010年4月　岡山大学病院　初期臨床研修医 2011年4月　三豊総合病院 初期臨床研修医 2012年4月　三豊総合病院 外科後期レジデント 2013年4月　四国がんセンター 外科後期レジデント 2015年4月　岡山大学病院　呼吸器外科　医員 2018年9月　Puerta De Hierro大学病院 (スペイン) 肺移植科/呼吸器外科へ肺移植フェローとして臨床留学 2021年2月　岡山大学病院　呼吸器外科　医員 2021年4月　岡山大学病院臓器移植医療センター　助教　(現職)	■ 呼吸器外科概論
氏名：田中　雄太（たなか　ゆうた） 所属：岡山大学病院 役職等：副薬剤部長 	2009年３月　熊本大学薬学部卒業 2009年４月　熊本大学大学院薬学教育部　博士前期課程　入学 2011年３月　熊本大学大学院薬学教育部　博士前期課程　修了 2011年４月　熊本大学大学院薬学教育部　博士後期課程　入学 2014年３月　熊本大学大学院薬学教育部　博士後期期課程　修了 2014年４月　岡山大学病院薬剤部　入職 2019年３月　岡山大学病院薬剤部　退職 2019年４月　独立行政法人医薬品医療機器総合機構　再生医療製品等審査部 2020年10月　独立行政法人医薬品医療機器総合機構　医薬品安全対策第二部 2021年10月　岡山大学病院薬剤部　復職 2022年10月　岡山大学病院薬剤部　試験研究室　主任 2024年　４月　岡山大学病院薬剤部　副薬剤部長　現在に至る	■臨床薬学概論
氏名：塚原　宏一（つかはら　ひろかず） 所属：川崎医科大学総合医療センター 役職等：特任教授 岡山大学名誉教授 	1985年6月　京都大学医学部附属病院小児科医師 1986年4月　滋賀県郡立高島病院小児科医師 1986年7月　福井赤十字病院小児科医師 1988年6月　福井医科大学医学部小児科助手 （1992年8月～1994年6月　米国ニューヨーク州立大学ストーニブルック校内科（腎臓・高血圧部門）客員研究員） 2002年10月　福井医科大学医学部小児科講師 2010年4月　岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児医科学准教授 2014年8月　岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児医科学教授 （2017年4月～2025年3月　岡山大学病院副病院長（医療安全管理部門当）・感染制御部部長） 2026年4月　川崎医科大学総合医療センター小児科特任教授（現在に至る）	■ 小児科概論

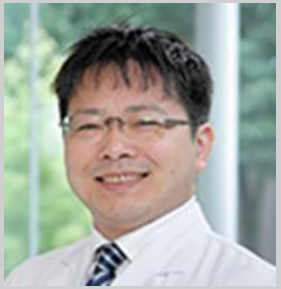
岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：辻　憲二（つじ　けんじ） 所属：岡山大学 学術研究院医歯薬学域 役職等：助教 	2006年に岡山大学医学部医学科を卒業後、愛媛県立中央病院で研修を行い、腎臓内科医となりました。岡山大学腎・免疫・内分泌代謝内科学で学位を取得後、米国ボストンのマサチューセッツ総合病院のDr. Jenny Luのもとに3年間研究留学し、帰国後は岡山大学で腎臓内科医として臨床と研究、医学部生・大学院生の教育を行っています。研究は腎臓の再生に関する病態解明をテーマにしており、本研究を通じて腎臓病に対する新たな再生治療開発に貢献したいと考えています。	■腎臓内科概論
氏名：土井　桃子（どい　ももこ） 所属：株式会社 マイナビ ヘルスケアソリューション事業本部 メディカルキャリア事業部 キャリアサポート統括本部 西日本推進部 役職：部長 	2014年に株式会社マイナビに入社し、近畿エリアの医療系学校の就職支援を担当。医療系学生向けに就職支援や実習対策などのキャリア、スキルアップの支援講座を多数実施。 2019年からは東海・近畿・中四国・九州の4拠点の統括として学生向け、学校向けに広報活動を実施。 学生が進路選択をする上で、できるだけ多くの「選択肢」や「行動」の機会を提供し、最適なマッチングができるよう情報サービスの提供や就職支援を行っております。	■ 医療・介護関連国家資格人材の概要
氏名：德増　一樹（とくます　かずき） 所属：岡山大学学術研究院医療開発領域 総合内科・総合診療科 役職等：講師 （研究准教授） 	2013年岡山大学医学部卒業。沖縄県立中部病院での初期・後期研修、チーフレジデントを経て、現在、岡山大学病院 総合内科・総合診療科にて講師（研究准教授）・医局長を務める。2022年医学博士取得。専門は総合内科、総合診療、プライマリ・ケア、医学教育。近年はLong COVID（新型コロナ後遺症）の臨床研究のほか、生成AIを活用した総合診療支援ツールの開発や、地域医療データベースの構築に関する研究に取り組む。趣味はロードバイクやトライアスロンなどの持久系スポーツ。	■ 総合内科概論 ～総合診療におけるデジタルヘルスと遠隔診療の活用～

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：中尾　博之（なかお　ひろゆき） 所属：医誠会国際総合病院 救命救急科 役職等：部長 	香川医科大学医学部医学科卒業し、日本救急医学会専門医・指導医資格を有し、同学会評議員を務めています。2001　明石市夏祭り事故対応を皮切りに国内外の災害医療対応を行ってまいりました。それ以降、災害医療、救急医療に携わり、現場から派生した疑問を研究に投影してきました。災害・救急医学領域とITとの融合として、電子トリアージタッグ、電子瞳孔計測器を開発し特許を修得しています。また、厚生労働科学研究費補助金にて、地域一体型のBCPの構築システムのIT化開発を行っています。	■ 救急医学概論
氏名：中澤　篤志（なかざわ　あつし） 所属：岡山大学学術研究院 ヘルスシステム統合科学学域 役職等：教授 	Atsushi Nakazawa Ph.D Professor, Faculty of Interdisciplinary Science and Engineering in Health Systems Okayama University. nakazawa.atsushi@okayama-u.ac.jp Tel: +81-86-251-8022 Dr Atsushi Nakazawa is a professor at the Faculty ofInterdisciplinary Science and Engineering in Health Systems at Okayama University. He received his Ph.D. in systems engineering from Osaka University in 2001. He then worked at the Institute of Industrial Science, University of Tokyo, and then at the Cybermedia Center, Osaka University. From 2013 to 2023, he was an Associate Professor in the Department of Computer Science at Kyoto University. In 2003, he moved to Okayama University. From 2007 to 2008, he was a visiting researcher at the Georgia Institute of Technology (GaTech), GVU Center, working with Professor James M Rehg and Professor Irfan Essa. In 2010, he was awarded the Precursory Research for Embryonic Science and Technology (PRESTO), Japan Science and Technology Agency (JST), and became a researcher of this programme. Since October 2017, he has been the Programme Investigator (PI) of the JST CREST project “Computational and cognitive neuroscientific approaches for understanding the tender care”. His research interests are in human behaviour/mental analysis using computer vision, eye tracking, eye imaging and motion capture systems. Dr Nakazawa has received best paper awards from IEEE VSMM and Japan Robotics Society (RSJ). His recent interests include image processing and computer vision, pattern recognition, robotics, and affective computing.	■ 実験データ解析のための統計入門

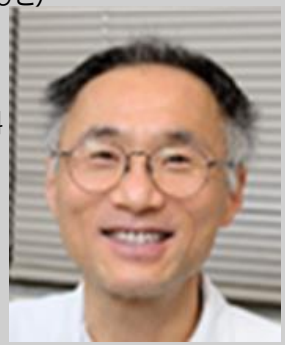
岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：中原　龍一（なかはら　りゅういち） 所属：岡山大学学術研究院医歯薬学域 役職等：講師（特任） 	岡山大学医学部卒業。救急医として5年間務めたのち整形外科医として、関節リウマチや外傷などの診療を行っています。MRIや超音波などの画像研究、マクロ解剖学などの研究を行っており、AI技術を用いた画像研究や電子カルテデータの言語解析の研究なども行っています。	■ 整形外科概論
氏名：西根　英一（にしね　えいいち） 所属：(株)ヘルスケア・ビジネスナレッジ 役職等：代表取締役社長 	ヘルスケアに係るマーケティング戦略とコミュニケーション設計の専門家として、ビジネスとパブリックとアカデミアの３領域で指揮をとる。 大塚グループ、電通グループ、マッキャン・ワールドグループ（ＣＫＯ 最高知識責任者とグループ顧問）を経て、現在、株式会社ヘルスケア・ビジネスナレッジ代表取締役社長、事業構想大学院大学 特任教授、千葉商科大学 特命教授、北海道科学大学薬学部 教授・非常勤、宣伝会議コピーライター養成講座上級コース 講師。 ＡＭＥＤ ＰＳ、日本マーケティング学会 理事、健検 理事、日本フェムテック協会 顧問 他。近著に『ヘルスケアビジネスの図本』シリーズ（https://healthcare.official.ec/）	■ ヘルスケア・マーケティング
氏名：根本　鮎子（ねもと　あゆこ） 所属：アクアシス法律事務所 役職等：マネージングパートナー 	アクアシス法律事務所代表弁護士。2005年司法試験合格、2006年東京大学法学部卒業。2013年ジョージタウン大学ローセンター（LL.M.）修了、同年ニューヨーク州司法試験合格。外資系法律事務所でのM&A、コーポレート支援業務を経て、現職。ベンチャー企業支援及びヘルスケア業界を含む企業の法務・コンプラインスを専門とし、現在はスタートアップ企業の社外監査役等も務める。東京都「Blockbuster TOKYO（ブロックバスタートーキョー）」メンターを務めた経験を有し、厚生労働省医療系ベンチャー・トータルサポート事業（MEDISO）サポーター、経済産業省Healthcare Innovation Hub（通称: InnoHub）アドバイザーも務める。	■ヘルスケア分野における法規制の概要

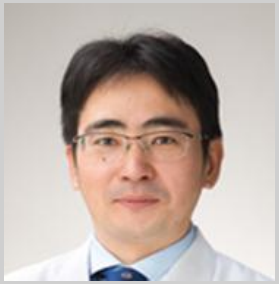
岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：野上　保之（のがみ　やすゆき） 所属：岡山大学 学術研究院環境生命自然科学学域 役職等：教授 【岡山大学 DX推進・情報セキュリティ担当副理事】 	情報セキュリティ・暗号技術を専門とし、岡山大学ではDX推進・情報セキュリティ担当副理事、グリーンイノベーションセンター グリーンバイデジタル部門長を務めています。 産学官連携では、おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム（OI-Start）会長、 岡山県高度情報化推進協議会 会長、おかやまIoT推進ラボ 会長として、 県内企業・自治体とのデジタル化・セキュリティ強化の取り組みを進めています。また、中国経済連合会セキュリティWG委員、セキュアIoTプラットフォーム協議会会員などを通じた 地域の情報化支援や、enPiT-BasicSecCap、社会人セキュリティ人材育成講座などによる セキュリティ人材育成にも携わっています。 学会では電子情報通信学会 情報理論研究専門委員会 委員長（2024年5月～）を務めるなど、 研究会・国際会議の運営に長く貢献しています。	■情報・IoT セキュリティ
氏名：野間　和広（のま　かずひろ） 所属：岡山大学 学術研究院医療開発領域 消化管外科 役職等：講師 	食道外科専門医，食道鏡視下手術による内視鏡外科技術認定医を持つ消化器外科医．2005年から2008年までPennsylvania 大学（アメリカ、フィラデルフィア）内に併設するアメリカ最初となる外部認定National cancer institute, The Wistar Instituteにて癌の基礎研究に携わる．帰国後は、食道癌の低侵襲治療や開発に取り組み、また食道癌のトランスレーショナル・リサーチを展開し食道癌の新たな治療戦略の開発を目指す．また2010年より岡山大学医療教育統合開発センター，2012年より岡山大学病院卒後臨床研修センターのスタッフとして医学生教育や研修医育成に力を注ぐ．2018年より消化管外科病棟医長として消化器外科医教育、病棟管理に従事する．2020年7月より食道チームのチーフとなり、また食道疾患センターの副センター長として食道疾患治療に従事する．2021年4月より消化管外科講師として学生教育・外科医教育に一層精力的に取り組む．	■消化器外科概論

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：林　行成（はやし　ゆきなり） 所属：國學院大學経済学部 役職等：教授 	國學院大學経済学部教授。鹿児島県鹿児島市出身。 一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学。 医療科学研究所研究員、一橋大学経済研究所客員研究員、岡山大学大学院ヘルスケアシステム統合科学研究科非常勤講師、 広島大学客員教授、広島国際大学健康科学部医療経営学科教授、日本医療経営学会理事、日本医療マネジメント学会評議員、などを歴任。 専門は、医療経済学。医療制度・政策、医薬品産業について、経済学的なアプローチから研究を進めている。 主要著書は、「医療経済学15講」（共著、新世社） 「知っておきたい医療リテラシー：日本の医療の効率と公平を問う」（日本評論社）など。	■公的医療・介護保険制度の概要
氏名：原　正彦（はら　まさひこ） 所属：(株)mediVR 役職等：代表取締役社長 	2005年 島根大学卒業、循環器内科専門医。神戸赤十字病院、大阪労災病院で研修の後、大阪大学大学院医学系研究科で学位取得。 査読英語論文 89編、米国心臓協会及び米国心臓病学会より若手研究員奨励賞を受賞、International Heart Journalより年間最優秀論文賞を受賞。 臨床研究に関する著書が医学書ベストセラー。 2016年大阪大学発ベンチャーとして株式会社mediVRを設立し2019年よりVRリハビリテーション医療機器、mediVRカグラの販売を開始。 取得特許 28件。経済産業省主催ジャパンヘルスケアビジネスコンテスト最優秀賞受賞。令和5年度 知財功労賞 経済産業大臣表彰受賞。2019年島根大学地域包括ケア教育研究センター客員教授。	■ 実例を通した医療機器開発と事業化概論
氏名：松尾　俊彦（まつお　としひこ） 所属：医療法人社団井口会 総合病院落合病院眼科 地方独立行政法人 玉野医療センターたまの病院眼科 役職等： 岡山大学特命教授（研究） 岡山大学名誉教授 	岡山大学病院で眼科医として働いています。眼科臨床全般を担当していますが、大学病院では長年「ぶどう膜炎」「眼腫瘍」「小児眼科」を眼科の中の専門領域として診療しています。ヘルスシステム統合科学研究科は、工学系教員や人文社会系教員と話す機会が多く、刺激になると同時に勉強になります。幾つになっても自分が知らない領域について学べるのは楽しいものです。研究としては、医師主導治験を目指して光電変換色素薄膜型人工網膜（OURePP）の開発を工学部の内田哲也教授と行っています。網膜の神経保護薬の探索研究、斜視の遺伝解析や、鑑真和上が日本にもたらした漢方薬の調査なども行っています。 なんだか統合科学らしい取組と思いませんか？	■ 眼科概論

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：松岡　敬典（まつおか　ひろふみ） 所属：岡山大学 学術研究院医療開発領域 役職等：助教 	はじめまして松岡敬典と申します。岡山大学病院産婦人科で勤務しています。2011年に医師になり、現在は大学病院で主に子宮がんや卵巣がんなどの婦人科悪性腫瘍の診療に従事しています。産婦人科ですので、通常の出産の立ち合いや帝王切開なども行っています。がんという生命を脅かす病気の診療や、出産時の母子の救命など幅広い診療内容を多くの職種で協力して行っています。女性のライフサイクルを、思春期からご高齢の方まで診療できることや、人の命が誕生する前から関わることができることにやりがいを感じています。	■ 産婦人科概論
氏名：松本　修平（まつもと　しゅうへい） 所属：名古屋大学 ディープテック・シリアルイノベーションセンター 役職等：特任准教授 	小学4年生より起業。中学卒業に伴い同年大検合格。高校進学せず個人投資家・起業家として活動し、関西学院大学卒業までに複数事業を創業。新卒にてベネッセコーポレーション入社。新規事業等を担当した後、複数社にて経営企画業務に従事。2018年有限責任監査法人トーマツ入社。アクセラレータプログラムリーダー・インキュベーションマネージャー等を多数担当。並行して、国内9大学の起業家教育にも従事し、2022年3月京都大学経営管理大学院修了（MBA）。同年4月同大学院博士後期課程入学。同年12月慶應義塾大学特任助教に着任。 2024年6月より名古屋大学ディープテック・シリアルイノベーションセンター特任准教授。	■ 起業・イノベーションの市場動向
氏名：三谷　宏治（みたに　こうじ） 所属：KIT虎ノ門大学院 役職等：教授 	1964年大阪生れ、福井で育つ。東京大学 理学部物理学科卒業後、BCG、アクセンチュアで19年半、経営戦略コンサルタントとして働く。92年 INSEAD MBA修了。2003年から06年 アクセンチュア 戦略グループ統括。2006年からは子ども・親・教員向けの教育活動に注力。現在は大学教授、著述家、講義・講演者として全国をとびまわる。KIT 教授（MBA責任者）の他、早稲田大学ビジネススクール・日本栄養大学 客員教授、放課後NPO アフタースクール・認定NPO法人 3keys 理事を務める。 著書多数。『経営戦略全史』（2013）はビジネス書賞2冠を獲得。 最新著は2025年8月刊の『経営戦略全史〔完全版〕』と 10月刊予定の『ビジネスモデル全史〔完全版〕』（いずれも日経ビジネス人文庫）。 HPは www.mitani3.com	■ 経営学基礎とビジネスモデル論 ■ 経営・事業戦略の概要 ■ ビジネスモデルの視点に基づく事業戦略ケーススタディ

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：宗友　一晃（むねとも　かずあき） 所属：岡山大学 学術研究院医療開発領域 放射線科 役職等：助教	岡山大学病院放射線科で画像診断およびIVR（画像下治療）に従事しています。放射線医学領域は大量の画像データを取り扱うため、AIをはじめとしたテクノロジーとの親和性が非常に高い部門です。画像診断領域では既に様々なアプリケーションが臨床で使用可能となっており、加えて科内ではIVRを行うロボットも開発中です。最新のトピックに追いつくのも大変ですが、当領域に馴染みのない方にも分かりやすい話題を中心にご紹介できればと思います。	■放射線科概論
氏名：森田　瑞樹（もりた　みずき） 所属：岡山大学 学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 役職等：教授 	東京工業大学生命理工学部卒業後、東京大学にて博士号取得。専門は生体情報科学、医用工学。加速度センサ、スマートウォッチ、ベッドセンサなどから得られる生体信号を機械学習で解析し、医療で使えるデジタルバイオマーカーとして確立する研究に取り組む。食道がん術後患者の回復モニタリング、COPD患者の日常行動解析、マラソン時の心事故予防、睡眠時無呼吸症候群のスクリーニングなど、病院との共同研究を数多く手がけ、社会実装を見据えた検証を重ねている。医療分野の自然言語処理・大規模言語モデルの応用、岡山大学病院バイオバンクの運営にも携わる。	■ ウェアラブルデバイスの臨床応用

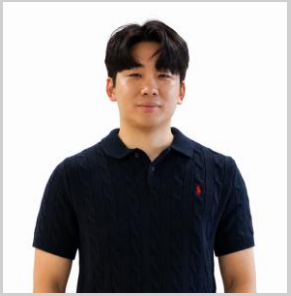
岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名:森松　博史（もりまつ　ひろし） 所属:岡山大学学術研究院医歯薬学域 役職等：教授 	1968年4月28日　愛媛県生まれ　A型 1993年岡山大学医学部卒。医学博士。関連病院での研修を経て1999年より岡山大学病院勤務。2001年から約一年半オーストラリア、メルボルンのAustin病院で臨床研究を学ぶため留学。Prof. Bellomoに師事。留学中に13枚の英文論文執筆。帰国後2007年より岡山大学病院助教、2010年より講師、2013年より岡山大学医歯薬学総合研究科麻酔・蘇生学分野教授。専門は麻酔・集中治療。急性腎傷害、酸塩基平衡などの執筆が多い。趣味は映画鑑賞、カラオケ、ゲームなど。	■ 麻酔・蘇生学概論
氏名：諸岡　健一（もろおか　けんいち） 所属：熊本大学 役職等：教授 	2000年 九州大学大学院 システム情報科学研究院 博士（工学）取得。2000年 東京工業大学 大学院理工学研究科　助手、2006年九州大学 デジタルメディシン・イニシアティブ 准教授、 2010年九州大学 医学研究院およびシステム情報科学研究院　准教授を経て、 2020年4月より岡山大学 自然科学研究科（情報系学科）教授。 現在、熊本大学大学院先端科学研究部教授。この間、2016年 Illinois Institute of Technology、Visiting Researcher、2019年 Imperial College London、Visiting Researcher。画像情報処理と人体モデルを用いた医療支援システムに関する研究に従事。	■ 医用画像情報処理

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：矢沢　一真（やざわ　かずま） 所属：ゲオム株式会社 役職等：代表取締役 	バイタルデータの変化等から認知症のBPSDを予測する「DeCaAI」の研究開発・社会実装を推進。近年、DeCaAIと家族型ロボット「LOVOT」を組み合わせた研究開発・実証実験も実施し、コンセプトモデルながら2025年大阪・関西万博の厚生労働省ブースや中国国際輸入博覧会（上海）にも展示された。AIの技術開発だけでなく、介護現場におけるデータ連携や制度上の課題にも取り組み、AIの社会実装に必要な規制改革について政策提言を行うなど、研究・事業・制度を横断した活動を行っている。	■ヘルスケア分野におけるAI・ロボティクスの社会実装
氏名：湯浅　慎介（ゆあさ　しんすけ） 所属：岡山大学学術研究院先鋭研究領域 役職等：教授 	岡山大学循環器内科の湯浅慎介と申します。循環器内科とは主に心臓と血管の病気の診療と研究を行う科になります。それらの診断は心電図、レントゲン、血液検査、エコーや造影検査からなるものであり、治療は薬物、ステントなどの医療機器、補助人工心臓や手術など多岐にわたります。循環器疾患においては、デジタルヘルスが進歩している分野でありますが、さらなる進歩が期待されている分野となっております。循環器疾患の病気や治療、その課題などに関してご紹介します。	■循環器内科概論
氏名：横平　徳美（よこひら　とくみ） 所属：岡山理科大学 役職等：教授 岡山大学名誉教授 	1989年3月、博士論文「双安定特性を有する計算機・通信システムの性能評価に関する研究」により大阪大学博士課程を修了した。 同年4月岡山大学工学部の助手となり、その後同学部の講師、助教授、教授を経て、 2018年4月～2026年3月まで岡山大学ヘルスシステム統合科学研究科の教授を務めるとともに， 2022年4月～2026年3月まで同研究科の研究科長を務めた。 2026年4月より，岡山理科大学情報理工学部の教授を務めている。 コンピュータネットワークに関する研究を40年以上行ってきており、 最近は、エッジコンピューティング、耐故障ネットワーク， ネットワークセキュリティの研究に取り組んでいる。	■Python プログラミングと ビッグデータ 構築・解析 （座学＋演習）

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：横山　慎太朗（よこやま　しんたろう） 所属：岡山大学 学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 役職等：助教 	岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学域助教。博士（工学）。心理学、スポーツ科学、情報科学を背景に、健康と疾病のあいだにある「未病」に着目した研究を行っています。これまで、身体活動や生活習慣、認知機能など、人々の健康に関わるさまざまな要因について、健康データを活用した研究に取り組んできました。現在は、病気になる前の身体・心理・生活・社会的な変化をデータで捉え、予防や健康支援、Well-beingの向上につなげることを目指しています。	■ヘルスケアデータの取得と活用
氏名：吉葉　恭行（よしば　やすゆき） 所属：岡山大学 学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 役職等：研究科長・教授 	2004年3月東北大学大学院国際文化研究科修了（博士：国際文化） 東北大学電気通信研究所助手、東北大学百年史編纂室室員、秋田工業高等専門学校教授を経て現職、東北大学史料館協力研究員を兼任している。 専門は科学技術史で日本の科学と技術の歴史について広い視野で研究を進めてきた。近年は大学の歴史とヘルスケアに関わる技術の歴史について関心をもって研究を進めている。著書に『戦時下の帝国大学における研究体制の形成過程: 科学技術動員と大学院特別研究生制度 東北帝国大学を事例として』東北大学出版会（2015・単著）、『老いー人文学・ケアの現場・老年学』ボラーノ出版（2019・共編著）、『帝国大学における研究者の知的基盤 ：東北帝国大学を中心として』こぶし書房（2020・共編著）などがある。	■ IT技術と関連産業の概要

岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」担当講師プロフィール

講師（50音順、敬称略）	略歴	担当講義名
氏名：米澤　麻子（よねざわ　あさこ） 所属：(株)NTTデータ経営研究所 役職等：ライフ・バリュー・クリエイションユニット/マネージングディレクター 	東京大学経済学部卒業。千葉大学大学院総合政策学科修了。大手生命保険会社においてヘルスケア領域の事業開発に携わる。NTTデータ経営研究所に入社後は、医療・保健・福祉分野のコンサルティング・調査に取り組む。専門は、ヘルスケアビジネス、社会保障。遠隔医療やPHRをはじめ、地域包括ケアやケアマネジメント、健康経営やメンタルヘルス、地域の健康増進や疾病予防等、ヘルスケア領域全般の調査・実証事業プロジェクトを長年実施している。	■ 医療・介護関連産業の概要 ■ 国・自治体・企業における健康関連施策の概要
氏名：渡邉　豊彦（わたなべ　とよひこ） 所属：岡山大学学術研究院 ヘルスシステム統合科学学域 役職等：教授 	泌尿器科医。専門は排尿管理、尿路・性感染症、ロボット手術。尿路感染症や下部尿路機能の診療ガイドラインの作成委員を歴任。岡山大学泌尿器科准教授、診療科長を務め、管理職経験をもとに、組織の中の多様な人間の行動についての経営学研究も行っている。山陽新聞デジタル版にコラム「泌尿器科医の時節感当」を連載中（https://www.sanyonews.jp/special/column/hinyouki）。また、泌尿器疾患の啓発を目的にしたYouTubeチャンネル　岡山泌尿器科チャンネルを企画、管理している（https://www.youtube.com/watch?v=7tpQ1DHu6ew）。県立姫路西高等学校、岡山大学医学部卒、医学博士、経営学博士。1967年姫路市生まれ。	■ 医療機関・介護施設経営の概要 ■泌尿器科概論